

エア・フィルタ

エア・フィルタは富士リングブロワで集塵するさい、塵埃、粉・粒体の分離器として準備しました。エア・フィルタは気密で強固なケースの中に、容易に交換可能な円筒状エレメントを収納した構造です。空気がエレメントを通過するさい混入の粉・粒体は濾過、捕捉され、富士リングブロワ内部への流入を防ぎます。

●特長

1. 通気抵抗が非常に小さい。
2. 気密性に優れ漏れの問題はありません。
3. エレメントは分離性能が良く長時間の使用に耐えます。
4. エレメントは圧力差に強く変形破損をしません。
5. 保守点検が簡単にできエレメントの交換も容易です。



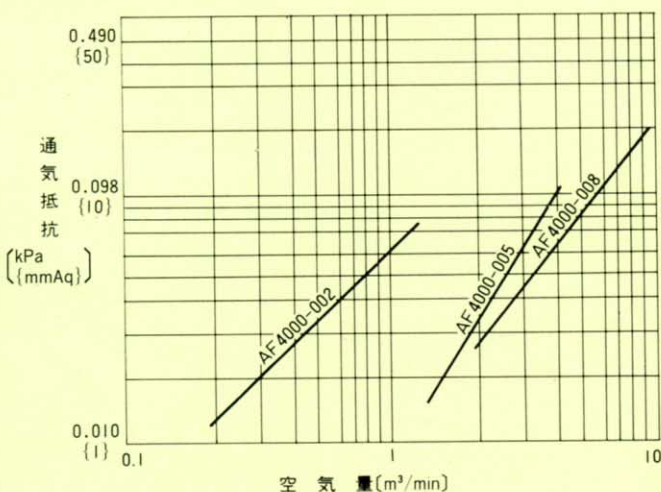
(写No SP483, 484, 485)

●仕様と適用

エア・フィルタ				適用富士リングブロワ	
形 式	濾材面積	口 径	質 量	形 式	吸込口径
AF4000-002	0.16m ²	PS1 ¼	1 kg	VFC088A(P), AN(PN)	φ32ホース用
				VFC108A(P), AN(PN)	//
				VFC208A(P), AN(PN)	//
				VFC308A(P, 8PN), 308AN	φ38ホース用
AF4000-005	0.94m ²	PS2	4 kg	VFC408A(P, 8PN), 408AN	PT1 ½
				VFC508A, 508AN	PT1 ½
				VFC608A, 608AN	PT2
AF4000-008	4.4m ²	PS3	10kg	VFC708A, AN	PS2
				VFC808A, AN	PS2 ½
				VFC908A, AN	PS3

濾材通気抵抗 47cm/s ΔP=0.125kPa

●初期通気抵抗



●注意事項

1. エア・フィルタの吐出口と富士リングブロワの吸込口の口径が違いますので接続時には市販の継手を使用して配管してください。
2. エレメントの目詰りは使用条件により異なりますが差圧で0.98kPa程度を目安に保守してください。
3. エレメントの清掃や取換えのときはリングブロワ側にほこりが落ちないように取はずしてください。そのときには内部に貯ったほこりも取除いてください。
4. エア・フィルタを横方向に取付けますとエレメントの取換えのとき、リングブロワ側にほこりの入るのが防げます。
5. エレメントに水分を含みますと通気抵抗が増え効率が低下すると共に強度も下がりますので、水分、水滴が内部に入らないように注意してください。
6. エレメントは消耗品ですので条件の悪い場所で使用するときは予備品をお備えください。

(注) 本ページ記載の{ }内の数値及び単位は、参考値として示したものです。

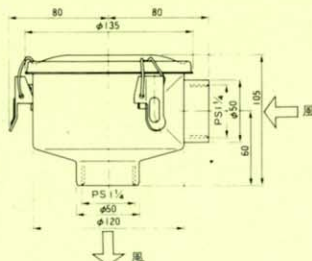
●外形寸法図

1

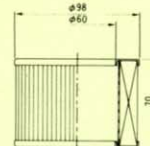
AF4000-002



(エア・フィルタ)



(エレメント)

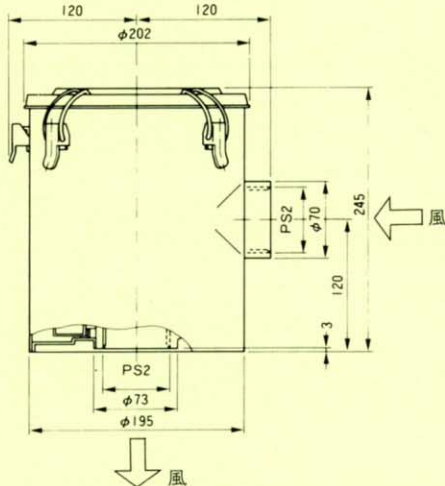


(写No SP485)

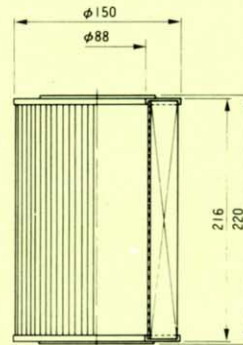
AF4000-005



(エア・フィルタ)



(エレメント)

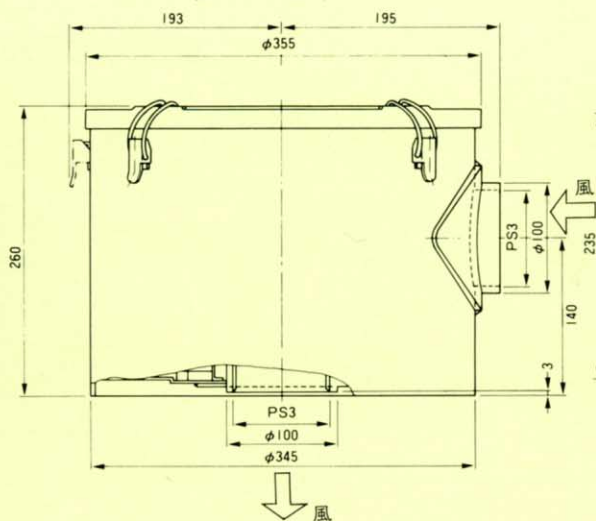


(写No SP484)

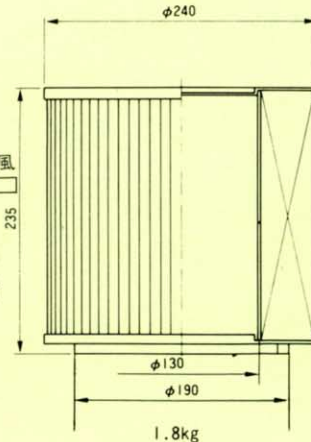
AF4000-008



(エア・フィルタ)



(エレメント)



(写No SP483)

(注) 本商品は、富士電機テクニカ株式会社扱いとなりますので、そちらへお問合せ願います。

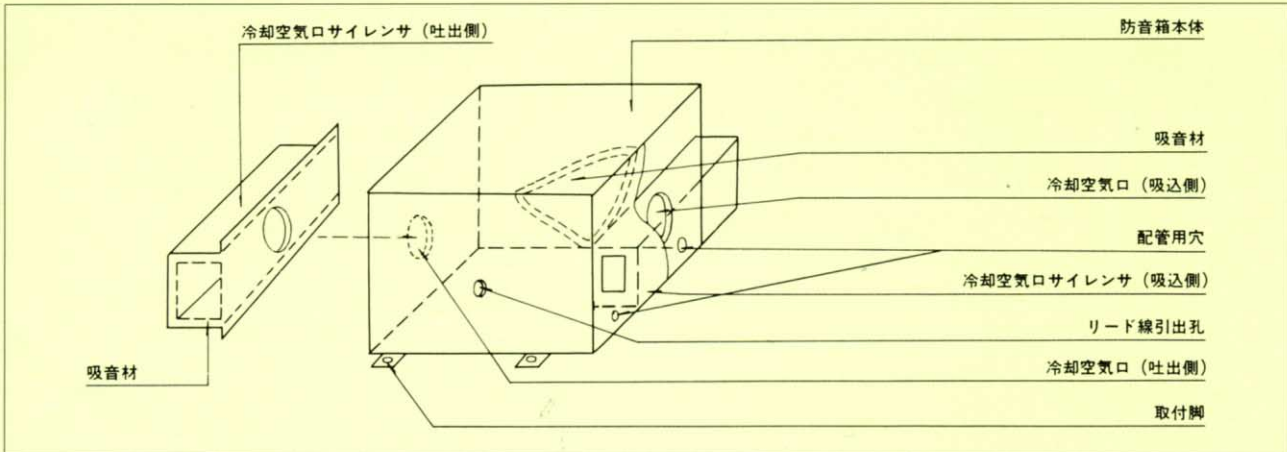
ご参考

防音箱

本防音箱の製作は、行なっていません。使用場所等でさらに低騒音化したい場合の基本寸法として記載します。

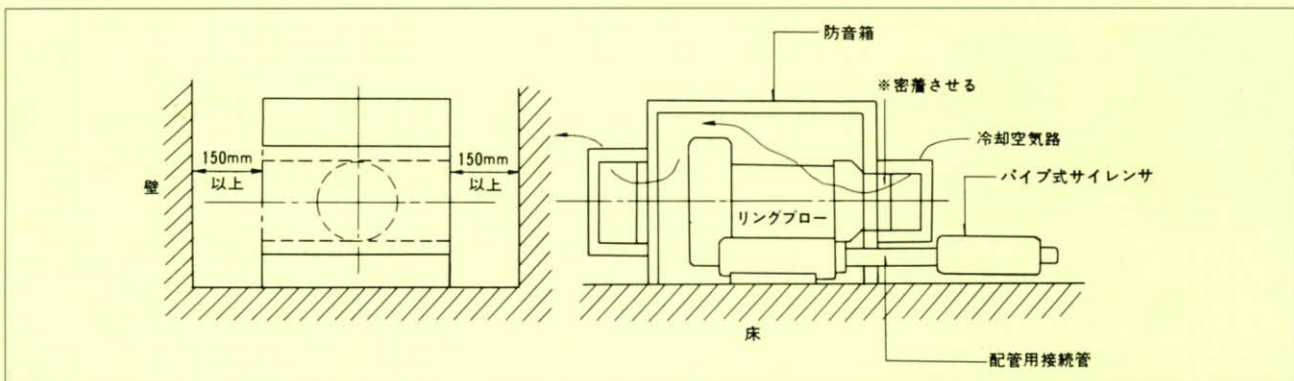
防音箱の構造は図1のように、箱の内側に吸音材を接着した本体と2個の冷却空気口サイレンサより成ります。

図1 防音箱の構造



(注) 冷却空気口サイレンサは本体へねじ止めまたは溶接してください。

図2 防音箱の設置状態



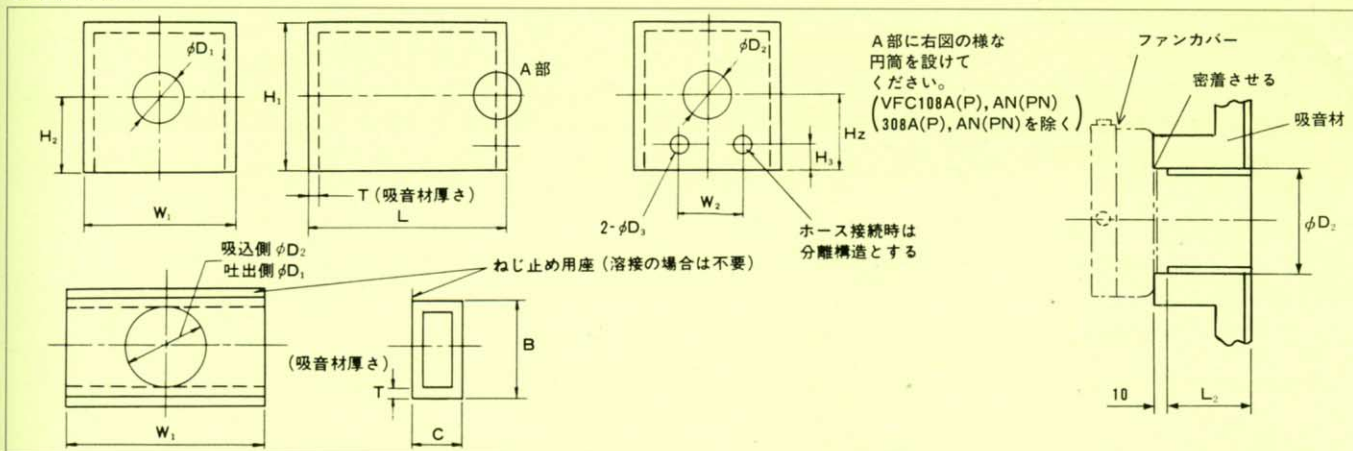
防音箱の設置順序

- ① リングブローを設置します。
- ② 防音箱をリングブローにかぶせます。
- ③ 配管用穴を通して配管接続管を取付けます。
- ④ 防音箱取付脚を止めます。

ご使用の注意事項

- ① 図2の※部はモーターファンカバーを冷却空気口に密着させ、隙間のないようにしてください。
- ② リングブローの吸込口、吐出口には必ず配管用接続管を取付けて、吸込口、吐出口を防音箱外へ出し、防音箱外で吸排気させてください。
- ③ 冷却空気口サイレンサの開口部(吸・排気口)から150mm以内には壁等の冷却空気流の障害物がないようにしてください。(図2参照)
- ④ 防音箱は取付脚で動かないようにし、図2※部がはなれないようにしてください。
- ⑤ パイプ式サイレンサは必要に応じて併用してください。

●外形寸法図



[単位：mm]

形式	L	W ₁	W ₂	H ₁	H ₂	H ₃	T	D ₁	D ₂	D ₃	B 吸込側 吐出側	C 吸込側 吐出側	L ₂
VFC108A(P), AN(PN)	295	261	75	249	116	30	20	110	68	40	111/153	82/87	—
VFC208A(P), AN(PN)	367	289	90	266	119	30	20	130	104	40	138/173	82/92	45
VFC308A(P, 8PN), 308AN	340	307	100	304	128	36	20	130	104	46	138/193	82/97	—
VFC408A(P, 8PN), 408AN	412	357	130(110)	354	155	41(44)	20	150	130	63	153/193	87/102	37
VFC508A, 508AN	487	437	120	419	180	47	20	200	142	63	173/243	112/122	90
VFC608A, 608AN	538	477	125	450	191	52	20	200	142	76	173/243	112/127	97
VFC708A, AN	679	519	125	520	250	80	20	210	175	64	208/253	112/142	163
VFC808A, AN	804	539	180	597	295	100	20	245	204	80	235/288	117/152	161
VFC908A, AN	929	597	200	672	335	110	20	280	240	93	268/323	132/167	164

(注1) 各寸法は内部寸法です。

(注2) VFC108A(P)は、D₁部に小形換気扇を設置ください。

(注3) D₃は、配管後詰め物により隙間をなくしてください。また特種配管時にはD₃は再検討後寸法を決定してください。

(注4) []内はVFC408ANに適用となります。

●材料

① 本体および冷却空気サイレンサ箱

厚さ1～2mmの鋼板をご使用ください。特殊な遮音材料を使用する必要はありません。

② 吸音材

吸音材としては、下表のようなものもあります。

各種の吸音材

吸音材	製造元	備考
グラスウール	旭ファイバーグラスK.K., パラマウント硝子K.K.等	やや高価
リフトフレックス	日本アスベストK.K.	吸音性は良い
モルトブレン (カラーフォーム)	SC	推奨品
	ESC	吸音性やや劣る(安価)
	イノアックコーポレーション	

●製作の際次の事項に注意してください。

- ① 冷却空気口サイレンサを本体に溶接する場合は、溶接後に吸音材を接着してください。(吸音材の損傷を防ぐ為)
- ② 冷却空気路(冷却空気口等)以外の穴や隙間は極力小さくしてください。
- ③ 吸音材厚さ20mm以上とし、薄くしないでください。薄いと吸音性が低下します。
- ④ 箱の内のり寸法の大きさを確保してください。小さくなる

と、冷却状態が悪くなり、防音箱の消音効果も低下します。吸音材を厚くする場合は、箱の各部寸法もそれに応じて大きくしてください。

- ⑤ 上記D₃の寸法は配管用接続管としてSGPを使用する場合があります。他の管を使用する場合は使用する管にあわせてください。
- ⑥ リード線引出し孔、取付側の形状・位置は任意です。

ご使用上の注意

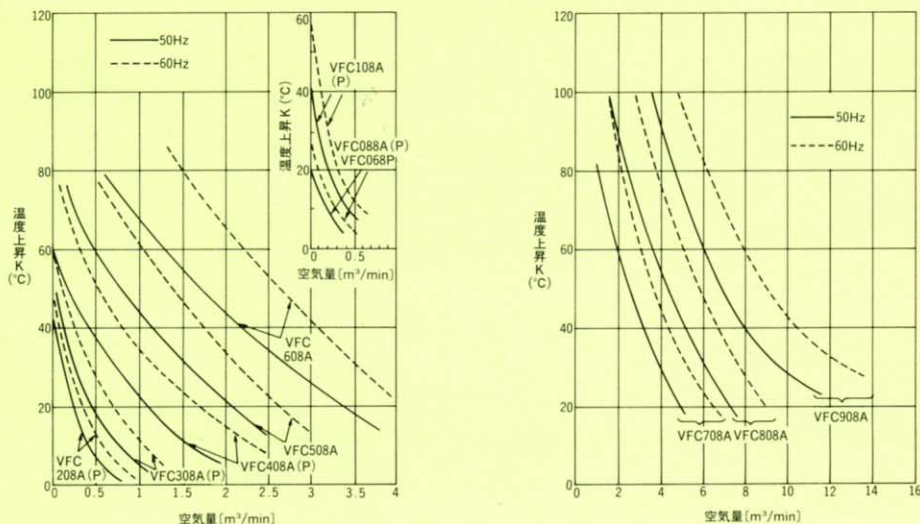
リングブローを使用されるとき、次のことに注意する必要があります。

- 吸込みで使用されるときと、吐出で使用されるときとは特性曲線で示されるように特性が異なります。
- リングブローを通過する空気は図1に示されるように温度上昇しますので、特に締め切りに近い状態では充分注意を要します。
- リングブローの締め切り使用は短時間しか許容できない機種もあります。(締め切り近くで運転される場合には、当社にお問合せください。)

バイパス穴を明ける場合は性能曲線中の値を利用ください。

- 堅い物質やごみはリングブローに入る前に取り除かねばなりません。(40ページのエアフィルタをご利用ください)
- 据付に当っては横軸でご使用ください。立軸または斜取付する場合は、ブロー側が下になるように、すなわち吸(排)気口が上になるように据付けてください。(図2参照)なおVFC708A以上は横取付のみです。
- 使用場所は周囲温度が40℃以下、相対湿度が80%以下の所としてください。
- アルカリ・酸などの腐食性液体・ガスのある場所での使用は避けてください。

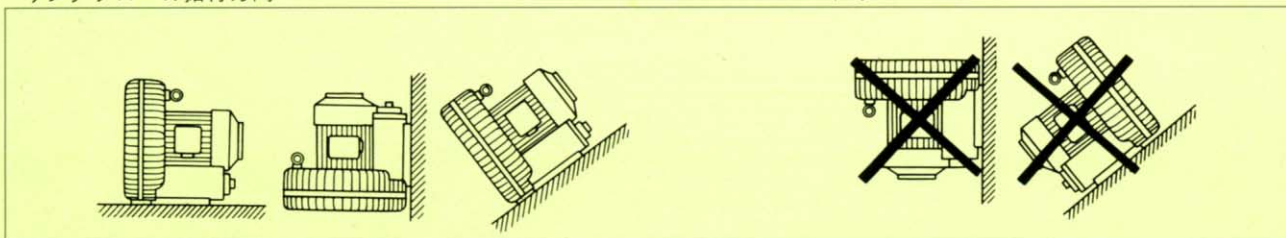
図1 吐出量変化時の温度上昇曲線(吐出口で)
(N, 8ANシリーズも同様に扱えます。)



リングブローの据付方向

図2 取付け

不可



カタログ記載の標準仕様は一部お断りなしに変更することがあります。